

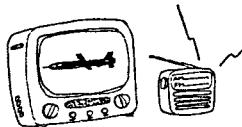
月刊トマホーク通信

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎ 03(498)6095

No. 21
87.7.20.
定価 100円

核艦船を止める市民の連絡網

反核 ホットライン



トマホーク艦の入港を知ら…



ほんとん 嘘う…
知らせて…



会員急募！

トマ食い虫社に連絡下さい。非核コードとホットラインの手引書、ハガキのセットをすぐお送りします。そう、会費（どうしてもお金がかかるのです）2000円（1年分）もお忘れなく。



抗議の
文書を書こう！



●横須賀・佐世保に入港する船の核（トマホーク）疑惑度を探点した非核コードを作りました。

●これはアヤシイ、マックロだという艦船の入港情報を電話で連絡します。

●電話を受けたあなたは…

☆抗議や要請のハガキを出す。あるいは電話をかける。あて先は外務省、当の市長や知事、そして米軍。☆友人、知人に連絡する「あなたもハガキや電話を、ね」

●一人一人の思いがこんなふうにつながって、ある日核艦船がほんとに止まつたら何て素敵なことだろう！

原子力艦入港情報 テレホンサービスを始めました。
ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗語番号 クロバ イレナイ 1071 イレナイ

天気予報と同じように、テープがその日の入港情報をお伝えします。そして抗議ハガキを！



トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1日 2000円
個人 1日 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1日 1000円
個人 1日 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間に！

第9回 全国会議を終えて

7.11~12

りの強行スケジュールでしたが、これでやっと全国会議が終わり肩の荷がおりました。

概ね年一回の全国会議として十分な内容になつたかどうか不安ですが、私たち吳、広島の者たちにとつては複数のメンバーが各地の最前線で闘っている人と直接、交わる機会を得たことは大きな収穫でした。忙しい中、各地から参加していただいた皆さん、また直接の参加は果せざとも各地でそれぞれの闘いを進めておられる皆さんのご協力に感謝します。

(トマホークの配備を許すな呉市民の会 湯浅一郎)

〔全国運動事務局から〕

感謝の言葉はそのままお返ししなければなりません。

吳・広島の皆さん、チームワークのとれた心遣いで会議はたいそう実りあるものとなりました。会場もなかなか素敵でしたよ!

さて、会議の内容をもう少し紹介しましょう。

参加者は四十四人。まず、二つのやや長い報告がありまし。一つは熊本の神田公司さんからえびの海上自衛隊VLF建設画と反対運動について。スライド「あぶないえびのVLF送信所」を上映。このスライドを使つての世論喚起と来年には公聴会の開催を計画とのこ

と。もう一つは横須賀の新倉裕史さんから神奈川での核艦船入港拒否運動の報告。内容は今号と次号で再録します。続く特別セッション「中国地方の反基地・反戦運動」も今号と次号で。

自由討論の冒頭には京都の林さんから分厚い新聞スク

吳にて

をとり、入港当日の九日早晨の行動をセットしました。当日は広島からのメンバーも含め二十人で海上自衛隊Fバースのゲート前で抗議し、呉市への申入れを行いました。そういううちに、全国会議直前の準備が十分できず、各地からこられた皆さんに迷惑をかけたのではないかと心配しています。

そんな慌しさの中で、全国会議は始まつたわけです。

会場の呉温泉は私たちも使うのは初めてで若干の不安もありましたが、お茶の面倒などのサービスも割合よく、何よりも夜の交流会を午前7時まで続けていて、文句一つでなかつたので安心でした。



全国会議の準備に追われていた七月七日、八日から十一日にかけて米艦船が呉港に入るとの情報が舞い込んできました。駆逐艦オルデンドーフ、フリゲート艦カーケ

とメイヤーコードの三隻。どれも半ば意識して、全国会議の日程を決めたのですが、蓋を開けてみたら、ばかり同じ日付になつたことには驚きました。とにかく抗議行動をおこさねばと、急拵連絡

をとり、入港当日の九日早晨の行動をセットしました。当日は広島からのメンバーも含め二十人で海上自衛隊Fバースのゲート前で抗議し、呉市への申入れを行いました。そういううちに、全国会議直前の準備が十分できず、各地からこられた皆さんに迷惑をかけたのではないかと心配しています。

そんな慌しさの中、全国会議は始まつたわけです。

会場の呉温泉は私たちも使うのは初めてで若干の不安もありましたが、お茶の面倒などのサービスも割合よく、何よりも夜の交流会を午前7時まで続けていて、文句一つでなかつたので安心でした。

更に会議一日目の日曜には、今度は岩国にFA18-ホーネット六機が、米本土から飛来しました。そして横須賀には原潜ボーツマスが入り、三宅島では住民の意思を無視して気象観測用鉄塔の建設が強行されんとし、日米統合指揮所演習が始まるというめまぐるしい動きの中で全国会議となりました。かくして会議の中で呉、岩国、三宅そして指揮所演習への抗議・申入れ文を決議し、横須賀の原潜に対しても、会議でも提起された反核ホットラインの運動を実行にうつすものとして参加者全員が抗議ハガキを書くという慌しさでした。

基地のある町での全国会議は、第一回横須賀以来ではないかと思いますが、そのせいもあってか、会議終了後の基地見学には二十数名が参加しました。佐世保の佐々木竹一さんたちは「地形や雰囲気が佐世保に良く似ているな」と感想を述べられ、自衛艦が見えると私たちより詳しい人が沢山いて、誰が案内しているのかわからない感じで、色々勉強になりました。自衛隊のFバースを見下す串山公園では記念撮影をしました。

十三日には京都の吉田満智子さんに、「無理をいいて残っていたとき朝から一日がかりで全国会議で決議した呉、岩国への申入れ行動を行いました。呉市、岩国防衛施設事務所、岩国の大蔵省、岩国市と四カ所を訪れ、かな

ラップとともに情勢の提起がありました。ペルシャ湾や南太平洋の情勢、日本の防衛分担、日米韓軍事一体化…。アメリカの軍事戦略研究家W・アーキン氏からのコメント「日本の運動は日本がアメリカの攻撃的戦略を受入れてしまつていて」とに焦点を当てるべきだ」が胸につきささりました。

討論の結果おおかたの合意を得たおもな事柄を以下に記します。勿論、これらは参加者をしばるものなどではなく、各地の運動の前進に生かしていくという性質のものです。

一 核艦船戦艦拒否運動を強めよう。(1)非核コードを活用し反核ホットライン運動に取組もう。(2)非核自治体運動に核艦船拒否を訴えよう。

二 通信基地反対運動を前進させよう。各運動間のネットワークを作ろう。

三 「キーンエッジ88」「チームスピリット88」「リムパック88」など大きな軍事演習に反対する運動を起こそう。

四 「海の軍備撤廃をめざす国際ヴィーグエンドー」の呼掛けが来年もあれば活用しよう。

五 八月の広島・長崎の集りに「広島を核の発射台にするな」など具体的な訴えをしよう。

警戒警報!

戦艦ミズーリ 日本寄港か?

ペルシャ湾への往路か復路

ハワイからの情報によれば戦艦ミズーリは7月25~26日にカリフォルニアを出港、8月15日頃ペルシャ湾に到着する。途中経路からいって日本寄港が要注意。もし、往路とすれば広島・長崎の日近辺だろう。今回の作戦行動自体、大國主義丸だしの軍事介入で大問題だが、その動き、ことさらしつかり注目する必要あり。

そうした既成事実の組直しにあたって、これまで出たあの手この手をともかく出す」と必要な気がします。もちろん「これだ」という一本、誰でも納得する物が出てくれればいいのでしょうかが、そういう「ウルトラC」は今は無い。そうじやなくて、私はこれがいいと心底信じ込む人達が沢山現れてくる」とが今必要のような気がする。そういう目で今までとこの一年間、わりと面白い、あの手この手が出てきているような気がします。そのいくつかをこれから紹介したいと思います。神奈川県における核艦船を止めるためのあの手この手のいくつかです。

がこれから運動の中心軸になるのではない
かと私は考へてゐるわけです。少なくとも
今現在横須賀市と神奈川県が、原潜が入港す
るたびに、外務省に出向いて行つて、どうに
かしてくれということをやつてはいる、それを
やめる」との出来ない力関係、世論との緊張
関係はいまなお持続していく、既成事実を組
立てなおすということがまったく我々の単な
る強がりといふことではなくて、やりよ
うによつてはいいところまでいくという材料を
私達は手にしているといつてよいと思つたので
す。

秋の上野の
風景

新倉裕中

(非核市民宣言運動ヨコスカ)

既成事実を組み立てたふす

神奈川の核艦船入港拒否運動の現状について
ついて報告する前に少し背景と申うか、どう
いう経過の上に現在があるかということを
話しておいたほうが良いように思います。
トマホークの実戦配備ということが私たち
をおそったショック、これは大変だなという
思いはとても大きなものがあると思います。
とりわけ横須賀市民や神奈川県民にとっては
大ショックで、じつとしてはおれないという
思いが間違いなくあつた。この問題について
の人々の動き方は、一言で表現すれば決して
カッコ付きではない草の根の人達が本気で動

いたと表現してよいように思います。これがこれまでの反基地・反核闘争の中には無かつたことでした。これまで反基地や反核運動をやつていなかつたこれらの人々の思いと少数でコツコツと運動をやつてきた人々・グループの思いが非常にうまいドッキングングをして一つの県民世論、横須賀市民世論を分裂させることなく形作ることが出来たということも大変良かったのではないか。その象徴的なものが一九八四年の神奈川県の非核県宣言でした。このように八四年にある程度、自治体の立場、決意を引出した、それ以後が問題になってきます。トマホークの配備を大変だな思つて立上がつた草の根の人達、あるいはそういった全体状況の高揚を支えた思いというのをきつちりと見切つた訳では無くて、結局出てきたものは疑惑というものであつたその先のトマホーク本体、核戦略本体であるとか、安保条約本体といった物は人々の前に

正体を現さずに、結局出てきたものは「疑惑」であるとしか僕らも含めて掴みきれなかつた。そういうところに限界が出てきていて、「疑惑」であるうちは、やはり思いというか危機感は解体されない。なしくずし的に「しょうがないや」という思いで高揚が沈静化されていく。ですから、今私達に問われているのはもう一度人々の暮らしの感覚の中でトマホークの配備の問題性を、どのように再度実感の有るものとして捕えかえし、突き出していくことが出来るのかという点に戻っていくような気がします。もちろん、ウマイ方法などといふものは無くて、人々の思い、諦め、あるいは結局は付き崩せなかつたという気持ちを引出している最大の物が、この何年か毎年新記録を書替えている横須賀への原潜の入港、あるいは原潜以外のトマホーク搭載艦船の入港に有るわけですけれども、そういうた既成事実そのものとの向き合い方が問題になつてくる。これまでは、既成事実は反対運動にのみ重くのしかかつてきて、決意性だけでがんばつてきても結局はその重みでペシャンコになつてしまつということの繰返しだつたのですけれども。そのように運動の方にのみ重くのしかかる既成事実ではなくて、自治体や日本政府までがその既成事実の積重ねによつて窮地に追込まれるという風に、この事実を組



「めでたし、おめでたし」を集めて「豊の県東尾」を挙げて、したものです。

ちろん、もちろん

にはかなりの危なさというものがはあるわけで、この点数が実際の核状況に見合つたものなのかどうかは問題ではあるのですけれども、ある傾向ははつきり掴めるし、神奈川県であれだけ署名運動が展開され、議会では自民党の反対を押切って県宣言を生み出した人々が、結局見えたものは疑惑でしかなかつたということをなんとか突破したいということで、疑

運動と市民運動が色々な分科会に分れて、県に予算を含む行政要請を行う。基地問題、環境問題、福祉、労働、教育…。その中の基地分科会で一年間ぐらいずっと研究会を持った暖めてきたのが「非核コード」です。これは今、十万枚印刷されていて、「一枚非核コード」というのがスローガンです。

アメリカの議会証言を中心に手にし、うるあ

実はこれは、すでに厚木基地ではやつていることなのですね。七月十四日にはミッドウェーが横須賀に帰ってきて、また夜間飛行訓練が始まるんですけれども、周辺の自治体に市民からかかった苦情の電話の数を、自治体が発表しているんですね。市民の抗議の数はしつかりカウントされて、自分のやつた行為がもういちどフィードバックされるしくみをこのホットラインの中にも作ろうと思います。ホットラインは電話で情報を流すのですけれども、それはいわば受身の情報収集の仕方

いに単位のノカタが自治体に基础设施はあるいは外務省に行くということは決して夢の話ではないと思っています。

やりっぱなしの運動にどうしてもなりやす
いので、何か空気をたたくだけの感じなつて
しまつ。デモとちがつて隣でやつている人が
見えませんので、へたをすると一回こつきり
で終わつてしまいかねないという弱点を持つ
のですが、そこをうまくカバーするために、
自治体にはまず抗議の数がどのくらい来たの
かということをきちんとモニターしてもらえ

この「核二一ト」はもぢろん、されなげでは実際の行動には結付きませんから、これをもとにいろんな行動を今考えています。そのひとつが反核ホットラインです。

これは、このデータによつて今日入つた船は怪しい、しかるべき抗議行動をするべきであると判断した場合には、すぐ動ける人は今日もやるように基地ゲート前にかけつけて抗議行動をやる。そうでない人のために四点セットのハガキをつくります。宛先は市と県と外務省と米軍基地。とにかく抗議のハガキを集中する。始めは何十という単位だと思つのですがれども、ゆくゆくは何千という単位のハガキが集中するところまで、反核ホットラインを全県下にくまなくはりめぐらそうとしています。例えば県の高校の先生の組合は少なくとも一百のハガキが出せるよう自分達の運動として取組むといつています。このような組合がもつとふえ、同時に個人参加の市民のネットワークが作られていけば、千と千の組立のハガキが日台本二基地にこういよいよ

非核コード【トマホーク】

このコードの●印はトマホークのみ表示します。空母艦載機の核爆弾は艦船リストから除外。水上艦船のアスロック（対潜ミサイル）、攻撃型潜航のサブロット（対潜ロケット爆雷）などは他の核兵器搭載判断の欄を参照下さい。

奈川でもゆくゆくは設定したいと思います。
もうひとつは、横須賀市にこういう電話を開設して情報を提供してほしいと要求しようか
という話をしています。「基地対策」として
もし、「そんなことは出来ないと言つんだった
ら、毎日それこそ業務に支障があるほど電話
をかけて、困らせてやろう。こんな「自治体
の攻め方・その二」みたいなのも考えていま
す。

非核コードと反核ホットラインというのは
仕掛けが大きくて実際どれだけきちつとした

など思っています。利害が出来ている「非核市民宣言運動だより」がみなさんのお手元にあると思うんですけど、村上さんという反トマ草の根署名運動から外に出るようになつた人が、署名運動をやつて、それなりの成果を得て、それから続かなくなつて、だけど一人で原潜に入るたびに手紙を書いていたんですね。市長宛てに。噂ではそういうことをやつていると聞いていたましたが、まさかあいつう長い手紙をそのつどめんめんと書いていたとは思つていなかつた。それを読ませてもらつたんですけど、あれだけ自分の思込みをきちんと伝えようとする人がいたんだといふことに驚いて、驚いた自分自身に少しやばいな

で、これがメインのシステムなんですけれどもサブシステムとして、聞きたい時に自分から聞けるネットワークを作ろうということで、反トマ首都圏運動として設定した「伝言ダイヤル」に毎日情報を入れてます。プッシュホンが使える電話ですと、今日の艦船の入港状

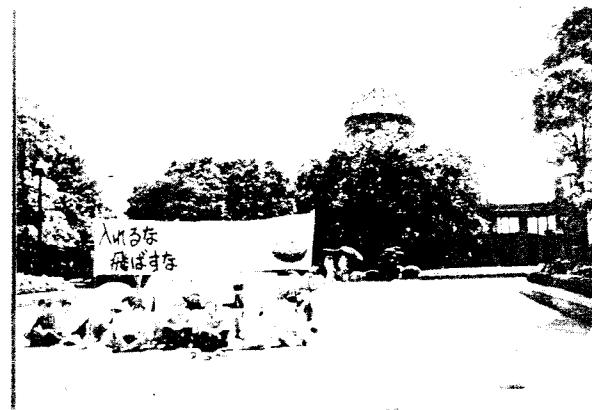
ものになるかどうかは不安なんですが、少なくとも仕組み、枠組みとしては県宣言が作られた時に匹敵するようなものが作られつつあって、要は一人一人の「止めたい」という思いがどれだけ確かなものとして県民の中に残っているのかということが勝負の分かれ目だ

中国地方の 反核・反基地運動

(上)

議会報告
全国での報告
文責 編集部

広島



「平和都市ヒロシマ」の 侵略撲滅化をはばむ

加藤まさき（ストップ・ザ・戦争への道ひろしま講座）

私は去年東京から広島にやってきました。

広島というと私には平和都市広島というイメージがあつて、期待に心もはずんで来たのですが、このかんひろしま講座の人たちと話をつづけてきて、広島とは果たしてなんだったんだろうという思いを持たれています。

広島は平和都市というよりも、過去には軍都の顔を持っていました。そのあたりのことは、「ザ・ディ・ビフォー・ヒロシマ」というパンフに戦前と今日の広島を浮き彫りにする形で書かれています。

結局被爆がなぜ起きたのかをつきつめて考えていくと、侵略の拠点だったからではないかという思いが出てきます。それがまた今日もなおかつそうなっているのではないか。特に岩国ヘホーネットが極東ではじめて配備されると聞くと、単にミッドウェーの艦載機が飛んでくるとかいうことではなくて、これは核攻撃機じゃないか、という気持が湧き起こってくるんです。

五月三十一日の「海の軍備撤廃をめざす国際ウイークエンド」に、私たちは「いれるな

核艦船「とほすな核攻撃機」というスローガンを打ち出しました。メリルの入港以後、私たちはずっと広島県、広島市、基地にたいして抗議行動や申し入れをしてきたわけですが、それがその後にあつた思いを皆さんにお伝えしたいと思うのです。

具体的な行動としては、吳にメリルが入港したときにも吳市、広島県、広島市に申し入れを行い、文書で回答するよう要請しています。文書回答は貰っているんですが、それがはなはだらしがないものであるため、しつこくしつこく要請を行っています。

今年になってからは、防衛費一揆突突破についての抗議や、岩国基地でのオーバーラン事故、F4ファントムからスパローミサイルが落ちたことに対する岩国基地司令官あての抗議などを行いました。

五月三十一日のウイークエンドのときには二千枚のビラをまき、原爆塔の前で座り込み

をしました。六月十三日には岩国市職労の平和問題懇談会と交流会を行いました。今年の十月には防衛施設局が吳から広島に移転する

ことが明らかになっています。中国地方で攻撃の拠点となるような軍備の体制が固まっているんですが、やっぱり韓国的情勢と連動しているんじゃないかと思いますし、下関や岩

国は韓国に一番近いということで、韓国の民衆が闘っているときに攻撃に行くような飛行機を飛ばしてなるものかという気持で私たちは頑張りたいと思います。

市が広報車で核燃料輸送を知らせる

美保

和田 薫(米子行政研)

美保基地群の中には、象のおりとよばれる高さ三十六メートル、周囲三キロの通信所があり、また近くの高雄山にレーダーサイトがあります。核戦争があった場合、通信所は狙われやすいわけで、もしここが破壊されたり、故障した場合ということを想定して、移動部隊もつくられています。

米子では反トマホークの運動は、三年前「戦争はいやだ市民の集い」という名前でトマホークのはりぼてをかついで、米子市内をサンバのリズムでパレードしました。今年あたり、ぜひとも反核というテーマでまたパレードをしたいと考えています。

島根原発2号炉の核燃料搬入が、この六月三段階にわかれありました。自分たちは通過地点なんですが、今まで一生懸命行政交渉をやってきました、かなりの歴史があるんで

すが、今回初めて米子市の方が住民に広報車を出すと約束してくれました。六月二日、自分たちも反対行動に出ておったんですが、一回目は蚊の泣くような声で、二回目はかなり大きな声で、市の広報車の放送が流れました。

実際、チエルノブイリの事故があつてから行政の方も、核は安全であるということをもうや言えなくなってしまった。一番ビビっているのが消防署員です。今のところ、米子市や広域行政では防護服を一着も持っていないんです。チエルノブイリがあつてから消防士たちがうるさく話しまして、ようやく三年計画で防護服が二着出来るようです。核燃料輸送については、米子市政研は五つの市と町を行政交渉の対象にしています。今回「町長さ

ん出てみない。どんなに危ないことなんか」というように見てもうえたみたいですね。

ここまで来たんだから、核燃料の鳥取県内通過を拒否しよう、案外来れるんじゃないとかいう雰囲気になってきました。

米子から境港へ向かって美保湾というのが広がっているんですが、その海岸沿いに美保基地があります。米子空港というのは実は、自衛隊の基地の中に民間の飛行場なんです。あくまでも民間が基地を利用させてもらつているという形になるわけです。

ここまで来たんだから、核燃料の鳥取県内通過を拒否しよう、案外来れるんじゃないとかいう雰囲気になつてきました。

米子から五六年もたつてしまつたんですが、かなりの騒音で地域住民から色々な苦情が出ています。行政でもアリバイ的に騒音調査をやつているようなんですが、いっこうにその報告が手元に回つてこないのが不思議ですね。

海外短信

グリーンピース

海洋非核化に乗り出す



会計報告

(87. 6. 4~7. 5)

[収入]

○前月からの繰越	132400
○会費収入	132000
内	
維持会員	82000
維持個人	27000
参加団体	0
訳	
参加個人	15000
通信会員	8000
(計)	264400

[支出]

●家賃(7月分)	40000
●電話代	9070
●郵送費	73630
●文具費	12900
●印刷費	14550
●手数料	300
●次月への繰越	113950
(計)	264400

国際的な環境保護団体グリーンピース(本部西ドイツ)は七月十日、「核のない海」の実現をめざして新しいキャンペーンを開催するとワシントンで発表した。この日は仏情報機関による「虹の戦士号」爆破からちょうど二年目。五隻の活動船で米、ソ、英、仏の海域をまわり非核国に対する核搭載艦船の寄港反対などを訴える。(七月十一日「朝日」) I.N.F(中距離核兵器)削減交渉の進展とともに、来年の国連軍縮総会にむけて海洋核配備への関心は世界的に高まりつつある。

六月三十日行われた国民投票の結果、アメリカとの自由連合協定に対しても賛成は六十八パーセントと批准に必要な七十五パーセントに達せず否決された。政府筋は来年十一月の大統領選挙まで自由連合協定はもうやらないと言明している。(反核パシフィックセンター東京発行「パシフィカ」No.3より)

今号では只での全国会議の報告がほぼ全紙面を占めることになりましたが、この一月余りの間に沢山の重要な出来事がおこりました。思付くままに挙げてみても、東芝機械ココム違反事件とそれをとらえたアメリカからの声高な防衛分担要求、ペルシャ湾への米艦隊派遣、三宅島への気象観測塔建設強行と住民の抵抗、韓国民主化闘争の大高揚、勝利、などなど。いずれも運動の視点から吟味する価値のある問題ばかりです。次号からこれ等の問題を順次取上げていきたいと思います。投稿歓迎します。それから各地の動き、運動情報、アピールや暮らしの中での思い、いつでもまつてます。
(た)



月刊反トマホーク通信 No. 21

*発行 トマホークの配備を許すな全国運動
(東京都渋谷区渋谷一丁目十九番
青山五〇一 トマ喰い虫社

◎〇三(四九八)六〇九五

*編集 反トマホーク通信編集委員会
100円(通信会員年間2000円)